

第5回あいりん総合センター跡地等ワークショップでのご意見まとめ（案）

※発言主体の記載がないものは、地域委員のご発言である。

○福利・にぎわいゾーンについて

（総論）

- ・「住民の福利」に関してこれまで様々な意見を積み上げ、西成市民館や保健福祉センター分館の使い勝手の悪さも訴えてきたが、その検討結果が示されていない。

（公民連携）

- ・一般的な「公民連携」だけでは、納得できない。大阪府が労働施設を作る一方で、大阪市は北側でどうするのかを見せてほしい。天王寺公園の「てんしば」はこの場所にはなじまない。大阪市はやることがあるという意見を申し上げたい。

（機能・イメージ）

- ・子どもや高齢者も総合的に応援できるように、一体的に考えてほしい。

○融合空間について

（総論）

- ・多目的広場になることが決まったのか。融合空間について、様々な意見があったと思うがどうなるのか。
⇒このワークショップの段階ではあくまで提案事項である。ただ、思いとしては、次のまちづくり会議（2/25 開催予定）において、合意いただきたいと考えている。（西成区）
⇒労働施設検討会議では、「駐車場の一時利用や多様に使える空間も必要」という意見もあった。そうした中で、柔軟に使える空間を確保することになったと認識している。（有識者）

（規模等）

- ・多目的広場の面積はどれくらいなのか。
⇒菟小の森よりも少し大きいくらいの広さで考えている。（西成区）

（機能・イメージ）

- ・フードコートのようなイメージで、屋根があり、自動販売機も設置され、机やいすを並べて、話し合いや居場所的利用ができるようなスペースであれば

納得できる。

- ・駐車場の問題もあり、道路があったほうが柔軟な対応ができる。車も通れる空間がある方がよい。
- ・柔軟性のある空間をつくることができればと思う。

(その他)

- ・小中学生、高校生、こどもたちの意見を踏まえたほうがよい。

○労働ゾーンについて（福祉的機能に関すること）

- ・「ワンストップでどんな相談も受け止める窓口」というご意見について、「物理的一体性」と「機能的一体性」に分けて検討を進めている。そして、就労に関連する相談窓口は、新たな労働施設内への設置（物理的一体性）をめざして検討中と聞いている。それ以外の相談に関しては、支援の機能を有機的につなげていく（「機能的一体性」）仕組みの議論をはじめたところである。

（有識者）

- ・今ある相談窓口を機能的一体的につなげていくという話をきいたが、そんな話をするだけで、放置される可能性がある。
- ・これまである資源とどれだけ連携が取れるのか期待している。
- ・サービスハブやコロナ禍での支援プロジェクトを行っている中で、釜ヶ崎はメリットのあるまちと認識されていると感じる。その中で、就労相談だけでなく、広く受け止めてその中で割振りができる窓口が必要と感じていたので、この流れでいければ良いと思う。
- ・おっちゃんの居場所を労働施設内に作ることができるのか。
⇒労働施設は、求人、求職活動をされる方の場所である。その方々が集まる場所や休憩する場所は確保する予定である。しかし、それ以外の憩いや福利を提供するような施設ではないと考えている。（大阪府）

○その他

- ・新たな大阪社会医療センターについて、利用状況に関する検証をできる場を作ってほしい。
- ・新型コロナウイルス感染症下におけるインバウンドの動きなども踏まえて、10年先のあいりんシェルター、ケアセンター、自立支援センターのあり方も含め、緊急の宿泊や相談体制などについて、考えておくべきである。